

第1回長崎大学高度安全実験(BSL-4)施設に関する有識者会議  
議事要旨

- 1 日時 平成27年2月26日(木) 17:05~18:35
- 2 場所 長崎大学グローバルヘルス総合研究棟4階 中セミナー室2  
長崎大学東京事務所(TV会議)
- 3 出席者 9名  
加藤史子、西條政幸、寺島実郎、朝長万左男、濱田篤郎、福崎博孝、  
蔣本恭、宮崎辰弥、山下肇
- 4 列席者 12名  
長崎県：大塚俊弘、竹野大志  
長崎市：井上琢治、梶原佳代子  
連合自治会長：深堀義昭、松尾寿和  
長崎大学：片峰茂、調漸、安田二郎、嶋野武志、深尾典男、堀尾政博
- 5 構成員の紹介  
構成員から自己紹介があった。
- 6 議事  
議事に先立ち、本会議の公開・非公開の取り扱いについて、協議の結果、議事の(4)までは説明事項であり公開とし、議事の(5)については構成員の忌憚のない意見を交換したいので非公開とすることとし、会議終了後に議長が概要を公表することとした。
  - (1) 議長の選出  
構成員の互選により福崎博孝氏を議長に選出した。
  - (2) 感染症をめぐる世界の現状と高度安全実験(BSL-4)施設について  
事務局の長崎大学から資料2に基づき説明があった。
  - (3) 高度安全実験(BSL-4)施設の設置に関する経緯について  
事務局の長崎大学から資料3に基づき説明があった。
  - (4) これまでに寄せられた反対意見や不安の声について  
事務局の長崎大学から資料4に基づき説明があった。
  - (5) BSL-4施設の研究内容、必要性、安全性に関する課題について  
BSL-4施設の研究内容、必要性、安全性に関する課題について議論がなされ、次のような質疑応答があった。(※○は構成員、△は事務局の長崎大学)
    - 現在日本ではエボラ出血熱の疑い例の診断は何処でなされているのか。
    - △ 国立感染症研究所でPCR法での遺伝子診断を行っている。一類感染症と解るまではP3レベルの施設での診断は可能であるが、一類感染症と確定した場合は、BSL-4施設でないとその後の検査等はできない。
    - 一類感染者が入院される場合は、指定の病院での対応となるのか。
    - △ 国内では特定感染症医療機関が3ヶ所、第1種感染症指定医療機関が45ヶ所あるで、その医療機関での対応となる。
    - 一類感染症の診断と治療は、第1種感染症指定医療機関等で出来るとの理解でいいのか。
    - △ 診断はBSL-3施設で可能であるが、現状は国立感染症研究所が診断している。治療については、特定感染症医療機関・第1種感染症指定医療機関の病床で行うことになる。

議長から時間の制限もあるので、これから先は意見をいただき、事務局である長崎大学が後日取りまとめて見解をお示しするとの提案があり、次のような意見があった。

- 「高度安全実験 (BSL-4) 施設を中核とする感染症研究拠点の形成」の計画が日本学術会議のマスタープランの重点大型研究計画に選定され、文部科学省のロードマップでも高い評価を受けていると説明がなされたが、外に応募があったのか。なぜ優位性をもって判断されたのか。日本に一つだけ作るうとしているのか。
- 住民に配慮した場合、坂本キャンパス以外の長崎の地で設置する幾つかのオプションはないのか。
- この施設が研究施設だけでなく、危機対応部門とし治療をする施設にもなるとのことであるが、病原体等を運搬するプロセスを説明願いたい。
- 海外の BSL-4 施設が市街地に多く設置されているが、どのような経緯で、どのように住民の合意形成に至ったのか、先行事例をお教え願いたい。
- 診断を行うのであれば、特定感染症指定医療機関 (千葉・東京・大阪) に隣接するところに設置すべきであると考えられる。なぜ、長崎なのか、研究面で使う意義、将来的に治療にも使用するのか、もう少し詰めていただきたい。
- 武蔵村山の国立感染症研究所の BSL-4 施設について、なぜ稼働できないのか述べていただければ、理解が深まると思う。
- 長大のHPのQ&AにBSL-4施設の候補地が坂本キャンパス内とされている理由として「長崎大学病院にはエボラ出血熱やラッサ熱などの患者を収容できる第一種感染症病床があり、国内外の観光旅行客の多い長崎で、万一感染者が出た場合にスムーズに対応できることが第一の理由です。」と掲載されているが、県外の患者が長崎に搬送されるのか。また、大学病院には第一種感染症病床は2床しかないの、観光船などで多くの感染者が発症した場合は対応できないのではないのか。
- BSL-4 施設は 40 年以上危険な病原体の漏出事故の事例はないとのことであるが、施設内での事故、また、危険でない病原体の漏出事故についても全て教えていただきたい。
- 日本学術会議の資料の中で安全管理、施設運営に国が責任を持って関わるべきとあるが、現状の国の動きについて教えていただきたい。
- 研究者の安全を確保することが重要であるが、今日の説明の中ではなかったもので、そのことを正面から説明してもいいのではないか。
- 国際的な感染症研究拠点として、国内外からの人材を含む研究資源が長崎に集約することにより、長崎の活性化につながりますと説明されたが、どのような事例が想定されるのか、具体的なことをお教え願いたい。

次回の開催までに時間があるので、他に意見等がありましたら、事務局の長崎大学へ問い合わせることとし、その方法等については、後日長崎大学から連絡することとなった。

#### (6) その他

議長から第2回有識者会議を4月1日(水)17:00より開催予定であるので、日程の確保について依頼があった。

以上